

市町村名		与那国町					
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	与那国町多言語観光案内サイン整備事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア 観光リゾート産業の振興	
担当部課名	企画財政課	事業実施 年度	平成 29	~ 平成 30	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	既存の観光案内版は、老朽化が激しく観光客や来島者の利用に支障をきたしている現状にあることから、景観に配慮した観光案内版への更新を実施すると共に、インバウンドへの対応として多言語での整備を実施する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
事業期間中の 予算額・ 執行額 【単位:千円】		平成26~27年度	28年度	29年度	31年度	合計	
	A. 予算現額			10,644	10,644	21,288	
	B. 執行済額			10,530	10,519	21,049	
	うち 交付金充当額			32,000	3,960	35,960	
	執行率(%) (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	98.9%	98.8%	98.9%	
執行状況の説明	・最終的な執行率は98.9%となり、概ね計画的に執行できた。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度	31年度
	・多言語観光案内板の整備を実施	目標				案内板16基 整備	案内板16基 整備
		実績				16基整備完了	16基整備完了
		目標					
		実績					
	目標						
	実績						
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度	31年度
	・既存観光案内板改修:16基完了	目標				観光案内板 16基整備	観光案内板 16基整備
		実績				16基整備完了	16基整備完了
		目標					
		実績					
	目標						
	実績						

事業完了後の取り組み

事業完了後の成果目標	成果目標(指標) <input type="checkbox"/> 中期にわたる事業効果 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度に発現する事業効果	達成/進捗状況				
			H30年度	R1年度	○年度	○年度
	来島観光客向けへのアンケート調査の実施 (案内板に利便性を感じたか)	目標		80%以上		
	実績		81.0%			
	目標					
	実績					
状況説明	【R1年度】 ・目標は上回っている					

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
--	---------------------------------------

【R1年度】 ・アンケート調査結果は上回っているものの、「印象に残った場所？」景勝地が最も多かったことから多言語観光案内をさらに充実させ安定した観光誘導が必要である。	【R1年度】 ・国内及び外国人観光客へ多言語観光案内板の設置に関する情報及びPR等の情報発信を行い、本町観光案内の利便性向上に努める。
--	--

今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)

【R1年度】 ・既存のイベント等及びHP,SNS等での情報及びPR等を発信し、国内は基より外国人観光客へ多言語案内板を活用した観光の充実を図り、今後インバウンド事業等の発展に繋げる。
--

市町村名		与那国町					
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	与那国方言保存継承支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア 伝統文化と保全・継承及び新たな文化の創造		
担当部課名	教育委員会	教育課	事業実施 年度	平成 26	~ 平成 30	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	本事業は、2009年UNESCOに消滅危機言語として登録された与那国語の記録保存と伝承、再活性化を目的とし、主として辞書作成を行う。並行して、保存継承のための企画を展開して衰退しつつある言語の使用を推奨する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
事業期間中の 予算額・ 執行額 【単位:千円】		~H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	合計	
	A. 予算現額	11,115	8,096	7,403	5,598	32,212	
	B. 執行済額	9,933	7,433	7,328	5,551	30,245	
	うち 交付金充当額	7,946	5,956	5,862	4,441	24,205	
	執行率(%) (B/A)	89.4%	91.8%	99.0%	99.2%	93.9%	
執行状況の説明	H27年度は計画していたダウンズンカニ大会が開催できなかったが、H28年度以降は取組を改善し、H30年度まで継続して開催した。その他の当初計画していた事業内容はすべて実施し、最終的な事業執行率は93.9%となり、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	辞典編纂	目標	資料収集	専門家雇用	専門家雇用	専門家雇用	原稿精査
		実績	資料収集	専門家雇用	専門家雇用	専門家雇用	原稿精査
	スンカニ大会の開催	目標	—	開催	開催	開催	開催
		実績	—	未開催	開催	開催	開催
	目標						
	実績						
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	与那国与那国辞典の作成完了	目標				素案完成	辞典発刊
		実績				素案完成	辞典発刊
	方言普及ツール作成	目標	カルタ エエ四 ラジオ体操	わらべ唄CD	簡易辞典 会話カード		
		実績	カルタ エエ四 ラジオ体操	わらべ唄CD	簡易辞典 会話カード		
ダウンズンカニ大会の開催 歌唱の部8人以上、作詞の部23人以上(H30)	目標	—	開催	開催	開催	歌唱8名 作詞23名	
	実績	—	未開催	歌唱8名 作詞21名	歌唱6名 作詞25名	歌唱9名 作詞35名	

事業完了後の取り組み							
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成/進捗状況				
	■ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度 目標/発現年度
	方言普及ツールを活用した活動の展開	目標	5回				
		実績	7回				
	アンケートによる事業検証(H31)	目標	理解度の深化 80%以上	—	—	—	—
実績		87.5%	—	—	—	—	
状況説明	<p>【R1年度】 ・辞典の活用法に関する講座を1回、日常会話を学ぶ講座を5回、普及ツールを活用したイベントを1回実施した。 ・町民を対象としたアンケートにより、方言辞典が与那国方言理解に役立っているかとの設問に対し、87.5%が助けになっていると回答し、目標の80%を上回った。</p> <p>【 年度】 ・</p> <p>【 年度】 ・</p>						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
<p>【R1年度】 普及ツールの活用、講座を開催し、保存継承に対する意識の高揚を図ってきた。その結果、町内小中学校の郷土学習における授業、学芸会・文化祭等での発表機会の増加、母語話者による読み聞かせの実施、行事等での積極的な方言使用、県文化協会主催しまくとぅば語やびら大会へ与那国町内から初の出場など、保存継承に対する気運の醸成が図られた。 意識調査では、方言に親しみを持つ割合が80%であるのに対し、与那国方言を日常的に使う割合22%、全く使わない～挨拶程度78%であり、実際に話す人の割合は増えていると は言いがたい。</p> <p>【 年度】 ・</p> <p>【 年度】 ・</p>			<p>【R1年度】 しまくとぅば普及センターや研究者とより連携をより強化し、これまでの保存継承活動を発展させ、深めていくことが重要である。 話者の増加が伸び悩んでいるのは、与那国方言を日常的に話したり聞いたりすることが少ないためだと考えられる。普及ツールには、日常会話で応用出来るものが少なかったため、町内在住の話者、研究者、しまくとぅば普及センターで連携して、ハンドブック型の与那国方言の日常会話集を作成する。</p> <p>【 年度】 ・</p> <p>【 年度】 ・</p>				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)							
<p>【R1年度】 会話集を全児童生徒に配布、各学校へ話者を派遣、授業で活用することにより、世代を超えた与那国方言の継承、日常生活の中で方言が活用されていく環境作りを進めていく。</p> <p>【 年度】 ・</p> <p>【 年度】 ・</p>							

市町村名		与那国町						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】								
事業名	与那国町古民家活用型定住促進事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-エ 過疎・離島地域の振興		
担当部課名	企画財政課	事業実施 年度	平成 26	~ 平成 30	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所		
事業内容	平成26年度与那国町古民家活用型定住促進モデル実施計画の成果に基づき、モデルとする古民家の解体・移築を通して、新旧を融合させた持続可能な建築技術の継承に取り組むとともに、整備した古民家を活用して定住促進を図る。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
事業期間中の 予算額・ 執行額 【単位:千円】		平成26~27年度	28年度	29年度	31年度	合計		
	A. 予算現額	8,320	35,359	40,000	6,000	89,679		
	B. 執行済額	7,867	35,275	40,000	4,950	88,092		
	うち 交付金充当額	6,293	28,220	32,000	3,960	70,473		
	執行率(%) (B/A)	94.6%	99.8%	100.0%	82.5%	98.2%		
執行状況の説明	・最終的な執行率は98.2%となり、概ね計画的に執行できた。							
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度	31年度	
	・古民家活用型定住促進体験住宅の建築 ・古民家解体及び移築設計マニュアルの作成	目標	保全マニュアル作成	解体マニュアル作成・解体工事・設計監理業務・住宅整備工事				
		実績	保全マニュアル作成	解体マニュアル作成・解体工事・設計監理業務・住宅整備工事				
	体験型住宅1棟の設計・工事の完了	目標			設計、工事実施			
		実績			設計、工事完了			
	家族型住宅1棟の設計・工事の実施	目標				設計、工事実施		
		実績				設計、工事完了		
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度	31年度	
	古民家活用型定住促進体験住宅の建築 古民家解体及び移築設計マニュアルの作成	目標	保全マニュアル作成	解体マニュアル作成・解体工事・設計監理業務・住宅整備工事				
		実績	保全マニュアル作成	解体マニュアル作成・解体工事・設計監理業務・住宅整備工事				
	体験型住宅1棟の設計・工事の完了	目標			設計、工事実施			
		実績			設計、工事完了			
	家族型住宅1棟の設計・工事の完了	目標				設計、工事実施		
		実績				設計、工事完了		

事業完了後の取り組み							
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成/進捗状況				
	<input type="checkbox"/> 中期にわたる事業効果 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度に発現する事業効果			H30年度	R1年度	○年度	○年度
							○年度 目標/発現年度
	稼働率(古民家活用型住宅)(体験型住宅)		目標	80.0%	80.0%		
			実績	100.0%	66.6%		
入居者数		目標	3人	3人			
		実績	3人	2人			
状況説明	<p>【H30年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験型住宅施設の稼働率は100%となり達成状況は順調である <p>【R1年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験型住宅施設の稼働率は66%となり昨年度実績より下回っている 						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
<p>【H30年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験型住宅施設の稼働率が目標を達成していることについて、情報発信及びPRの効果が順調に繋がっていると思われる。 <p>【R1年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験型住宅施設の稼働率が下回っていることについて、共同住居施設は基より、雇用関係に課題があると思われる。 			<p>【H30年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き認知度向上や魅力の発信等に努める。 <p>【R1年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入居者に対しきめ細かな対応が必要である。また、地域との繋がりを斡旋することで雇用の安定を図る。 				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)							
<p>【H30年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験型住宅施設の活用にあたって、移住定住促進事業に伴い県外への認知度向上やPR発信に取り組む。 <p>【R1年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移住定住促進事業に伴い、関係団体(商工会等)との連携を強化し、雇用の安定を図るとともに、入居者への対応も併せて取り組む。 							